みんなの広場

はっらつ ところ 野老っ子

日のあたらない歴史上の人物にひかれます

秋山　圭さん
（緑町在住）

埼玉県が県内における文芸活動の振興を図ることを目的に、文芸各部門のうち特に優れた作品を顕彰する埼玉文芸賞も今年で34回目を迎えます。今回は、「丘に鳴る風」で見事に同賞の小説・戯曲部門で準賞に輝いた秋山さんをご紹介します。

秋山さんは、都内で小学校の教諭をしていました。「退職を機に老後のことを考え、楽しみつつ集中できるものを見つけなければと思ったんです」と小説を書き始めたきっかけを話してくれました。

この小説に登場する松崎慊堂という人物は、江戸時代の儒教学者です。幕府体制の秩序を守る側にありましたが、幕府の政策を批判した弟子の蘭学者である渡辺崋山が斬罪に処せられそうになった際、身を挺して救おうとした人物です。

「本来、歴史的には崋山の方が有名な人物ですが、日のあたらない歴史上の人物が好きで、資料を読みあさるうちに慊堂にぐいぐいとひかれていきました」とその魅力を熱く語ってくれました。

歴史上の人物を題材に小説を創作する場合、書き上げる時間よりも、歴史上の事実を研究することに時間を要するそうです。こうした資料をもとに文章を組み立てて行きますが、どうしてもつかみきれない部分は、自らの想像を働かせ、作品をつくり上げます。

「慊堂に関する資料を求めて、図書館通い、古書さがし、そして慊堂の故郷熊本にも足を運び、その足跡をたどりました」とさらりと話す秋山さんですが、こうした地道な研究の成果が今回の受賞につながったのでしょう。

文筆活動のかたわらウォーキングが趣味で、2年ほど前には、中仙道の日本橋から京都の三条大橋までを仲間と一緒に2年数か月をかけて歩いたそうです。「今は、日光街道を歩いています」とバイタリティーのある一面ものぞかせます。

所沢に移り住んで3年になり、緑も多く買い物にも便利で、この街が大好きという秋山さん。これからは、所沢の市史も研究して、所沢の歴史上の人物を題材にした小説にもチャレンジしてみたいと今後の抱負を語ってくれました。

贈呈式会場にて

▲多くの人出でにぎわう中、ひときわ目を引いた70mの焼きだんご。「市民文化フェア」。
4月5日㈯～6日㈰／所沢航空記念公園

TOKOROZAWA ものしり ウォーキング 37

久米・旗本の墓

旗本中根氏の墓

久米の長久寺には、江戸時代に久米村を支配していた旗本中根氏の墓があります。

旗本とは、将軍直属の家臣で1万石未満の領地（知行地といいます）を与えられ、しかも将軍に御目通りを許された者をいいます。

中根氏は、徳川家康が三河にいたころから仕えていた武家で、天正19年（1591）に家康が関東へ入国した際に、久米の地に200石の知行地を与えられました。

長久寺にあるお墓は、久米村を最初に支配した中根伝七郎正重の200回忌に建てられたもので、寛政7年（1795）建立とあります。中根氏は、のちに6、000石の知行地を持つ大身の旗本になりますが、同氏には面白いエピソードがあります。

正重の子孫に、大番頭という旗本最上位の役職に就いて大隅守を名乗った人物が江戸時代前期にいました。

あるとき、その中根大隅守が熊谷宿に泊まることになったところ、参勤交代のため萩藩主の毛利氏が先に宿に入っていたため、幕府の定法に従い譲り合うよう申し入れましたが拒否されます。

そこで中根は宿場の広い場所に陣を張り、篝火を焚いて一行の者とともに一夜を明かします。翌日毛利氏の一行が宿を発とうとしますが、中根は「幕府の定法が守れないようなら通すわけには行かない」といって立ち塞がります。

毛利が仕方なく詫びると中根の一行は悠々と陣を片付けて道を通しますが、江戸到着が大幅に遅れた毛利は大いに狼狽したというものです。

例え相手が大名であっても幕臣として毅然とした態度で臨んだ中根大隅守の人物像を示す話です。

市内には、旗本の墓がこのほか5つあります。同じ久米永源寺の高井氏、三ヶ島妙善院の沢氏、上山口清照寺の久松氏、山口瑞岩寺の宇佐美氏と久貝氏です。

旗本は江戸城周辺に住むのが一般的ですが、江戸時代の初めはまだ江戸城周辺が整備されていなかったため知行地に住んでいました。そうした関係でお墓も知行地にある寺に葬られるなどかかわりが深かったのです。

久米の長久寺

街かど ズームイン

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「幸せ」▶人はみな幸せを求めて生きています▶なんと言っても生きるための活力ですから▶皆さんが「幸せ」と感じるとき▶思わず自慢したくなるような体験談等をお寄せください▶締め切りは5月13日㈫必着▶住所・氏名・年齢・電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木1－1－1所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係

▲春本番。満開の桜が道行く人々を魅了しました。ライトアップ用の提灯も花を添えています。
4月上旬／東川

▲新しくなった保育園の完成を祝い、在園児たちによるお遊戯の発表を行った「松井保育園竣工式」。
3月27日㈭／松井保育園

リサイクル ふれあい館「エコロ」不用品ガイド

●**譲ります**　▷ギター▷女性用ゴルフセット▷スライド式本棚▷本棚▷歩行補助車▷加湿器▷プレーヤー付きミニコンポ▷エアコン▷A型ベビーカー▷オーブン電子レンジ

●**求めます**　▷ビデオデッキ▷テレビ▷全自動洗濯機▷ガーデンテーブル▷ノートパソコン▷マッサージ機▷シングルベッド▷パソコンプリンターセット▷コピー機▷ワープロ▷組み立て式いす▷B型ベビーカー

受付方法　電話による先着順で紹介します。

休館日　月曜日、祝休日

申し込み・問い合わせ　リサイクルふれあい館（☎994-5374・FAX994-1118）

◎新しいリサイクルふれあい館は、日比田620-1に移転し、5月10日㈯からオープンします。

とことこ 町内会めぐり

【所沢市自治連合会】

今号から始まるこのコーナーでは、皆さんのより身近な暮らしの中で、日ごろから地域のために活躍されている各自治会の紹介をしていきます。

今回は、事務局であるコミュニティ推進課から、所沢市自治連合会の概要や事業等についてお話しします。

同連合会は、昭和53年1月に市内の各自治会の健全な発展と親ぼくを図ることを目的に発足しました。現在は、253の自治会が加入し、9つの事業計画を基に、環境美化運動の推進・地区活動に対する協力などを行っています。

その中から、平成14年度に実施したいくつかの事業を紹介します。

花いっぱい運動を推進するため、新所沢地区の青葉会自治会では、せせらぎの小道（砂川堀）にプランターを設置し、花の苗を植栽しました。また、富岡・新所沢東公民館を会場に、季節の花2,000鉢を配布し、住民の皆さんに大変好評をいただきました。

このように、同連合会ではさまざまな事業・活動を計画し、地域の発展などに貢献しているほか、各自治会相互の親ぼくを図るための旅行等も実施しています。

次回からは、事業・活動等について、それぞれの特色を含めながら、各自治会の紹介をしていきます。

皆さん楽しみにしていてください。

問い合わせ　コミュニティ推進課（☎998-9083・FAX996-0015）

誰でもエッセイ

テーマ　子ども

今昔

下富・細渕　春夫

この世に生を受けて半世紀。昭和30年代から40年代までが私にとって「子どものころ」と言えるだろうか。

物は少なかったが、それなりに不自由はなく、自分たちで遊びを探しての毎日だった。小学校へ行く前に、集合場所で遊んでから登校。帰ってからは、野球・ろくむじ等で遊んだ。

時には、家に帰ってから何か宿題があるのを思い出し、祖母に近くの同級生に聞きに行ってもらったこともあった。遊びに夢中で勉強もろくにしない私に、たまに親も「勉強しろ」と言ったとは思うが、さほど厳しくもなかった。

今の子どもたちは、どうだろう。朝食もとらず登校し、帰れば〝塾〟。公園に行けばボール遊び禁止！木登りをさせたくても木は無く、土も無く…。これでは、体力低下もしかたのないことか。

物は無かったが心はあった昭和の時代。物はあり余っているが心は無い平成の世の中。できれば昔のころに戻りたい。

証明しましょう！

若狭・井上　美恵子

ある日、電車の中で次のようなことがあった。

私はドアの近くに立って、6つ目の駅で降りねばと思いながら、ふと下を見るとボールペンが落ちていた。次の駅で乗客がそれを蹴った。次の駅では踏んだ。その次の駅で私は降りるのだ、ボールペン（この子）の行く末が気になる。どうしよう…。

電車がホームに入る寸前、近くにいた女の子に「あなたの？」「いいえちがいます」。私は思い切って拾い、下車した。ホームを歩きながら思案した。物があふれている今、駅員さんに届けても…。偶然、私の目に留まったのも何かの縁だ！この子を養子にしよう。

今、この子の出番。そのボールペンで書いている、私のために役立っている。この投稿が日の目を見たら、この子の存在が証明されるのだ。さて、結果は？

でも、夢の中では

小手指町・玉城　由美子

私は子どものころ、男の子みたいな子でした。とにかく活発でよくケンカもしたので、ケガをして学校から帰ったこともありました。

友達も男の子の方が多く負けず嫌いな私は、給食はクラスで誰よりも先に食べ終わり、いつもお代わりをしていました。小学1年生から6年生まで、1度も泣いたことがないのが、そのときの自慢。

そんなパワフルだった私も、気が付いたらおっとりマイペースなお嬢さん扱いに。誰よりも食べるのが遅くなり、穏やかで…。「怒ったことある？」と言われるようになってしまいました。そんなことないのにな。

でも、夢の中では、不思議といつも子どものころの自分になっているんです！何の違和感もありません。そして、やっぱりこれが本当の私なんだと…。

記念作品

下安松・新倉　文平

私は、牛沼荘の陶友会の会員です。

毎年3学期になると、安松小学校で卒業記念の一環として行われる陶芸のお手伝いに行きます。

造形や野焼きは校庭で行います。約2時間の間、生徒の実習を見ていると千差万別。粘土を受け取るとすぐに作る子、ダンゴにして遊んでいる子、家で作った設計図を基に念入りに考えている子。児童の目は、生き生きと輝いています。いろいろと個性に富んだ子ども心を表す品々は、私を童心に帰らせてくれます。

いつも感心するのは、児童の礼儀の正しさです。大人に対する受け答え、朝・帰りの挨拶、てきぱき動く各当番の役割、給食時の接客のマナー等、先生の指導の賜物かな？

これから中学・高校と進学する身、今の心の純粋さを忘れることなく進学してほしいと願っています。

必要としている

本郷・北田　道子

昨年の今ごろ、川沿いをさっそうと自転車に乗り、満開の桜を堪能していた妹が亡くなった。そして、1歳10か月の姪が残された。

週末、実家に寄ると、小躍りして甲高い声で「こんにちは」と歓迎してくれる姪。週に1度会うことに成長する姿は、目を見張るばかりだ。

ハサミを使ってチョキチョキ切ることを覚え、うさこちゃんの絵本をあたかも読んでいるかのごとく説明する姿や「ごちそう様でした」と食器を下げる姿には恐れ入った。そして、パパがお迎えにきて「どうもありがとうございました」なんて、かわいい声で言われると、直前まで眠くて甘えていた子かと思う。

今、2歳3か月。父親が仕事で不在の日、面倒をみてくれる人を必要としている。姪の笑顔は、日常の疲れやストレスを癒してくれ、日曜日が待ち遠しい。案外、私の方が必要としているのかもしれない。成長を見守りたい。

次回のテーマは「幸せ」です